

「イカ」釣具調査報告



沿岸底魚漁場調査及一本釣試験

1. 調査期間 自1950年9月21日 至10月27日

2. 使用船隻 大島丸 30名 60坪

3. 調査員 自具

4. 調査地域

(1) 伊豆大島 伊豆大島 伊豆大島 伊豆大島 伊豆大島

5. 試験概況

(1) 試験の方法

漁具は従来一本釣具(マナ釣)を使用し釣餌は各人1針にして潮流の緩慢な場所と時化のため魚類を  
 規定餌料は使用釣具にて能を約奪して試験を実施する事とした。

(2) 結果

(1) 調査結果

届間は側付底魚の幼魚らしきのが餌に付く感じを受けたが漁獲する事が出来ず結局1.5寸〜2.5寸の釣り針を使った為幼魚に対しては針が大きすぎた。日没後は40支程度の俗稱「イラダ」の時々釣獲されたが漁獲の対象とはならず月の出前即ち高潮直前には1.5〜2.5位の玉目鯛やタナビ鯛等が釣獲されたが下げ潮になると共に漁獲不可能となつた。水深1.5尋、水温は22.8度を示していた。

(2) 渡名喜南沿岸

渡名喜島は北方から南西岸に亘つて珊瑚礁地帯が多く底魚の繁殖場所もかなり多いと思われるが調査の漁獲地帯が狭く見受けられ一般的に調査が速く漁場の固定については細心の注意が必要で潮時にも停潮時を見計らつて操業する事も最も効果的だと思つた故つて今回は港外附近の南西岸にて試験した結果届間はハマ類(メバチ)が時々釣獲され夜間は魚種が変りフニダイ科とメタルの俗稱(ミニジャー)の釣獲があつたが何れも期待される漁場ではなかつた。水深1.5〜2.0尋程度で水温は22.8度を示していた。

(3) 久場島沿岸

到着時が遅かつた為日没後より操業開始。当日は中平迄は上げ潮で丁度良い潮時たつたと思われ操業も稍々良好であつた。魚種はハマ類、玉目鯛、タナビ鯛で主として玉目鯛が多く全漁獲量の90%程度を示していた。餌料は支那産と家で試験したが支那産の漁獲は殆んど見られぬ状況であつた。又潮流も上げ潮から停潮迄が長く下げ潮になると共に漁獲は無となつた。

6. 気象 毎日

月 日	時刻	天候	雲量	風位	風力	波浪	透明度	水色	気温	水温	比重	注 記
9月22日	17h-19m	0	3	SE	4	3	2	4	22.2	22.9	2640	渡名喜南岸
9月23日	18h-19m	10	5	ENE	5	3	1	3	22.7	22.2	2620	久場島沿岸
9月24日	14h-15m	10	7	E	5	4	1	5	22.5	22.5	2637	川波通港内
9月25日	17h-19m	10	7	ENE	5	4	1	5	22.4	22.5	2633	※

7. 所 感

(1) 今回の試験は台風の台災を受けた為に点々と場所を変えて操業する事が出来ず結局を顧つて操業する新方法がなかつた。従つて各離島の沿岸全域に亘つて調査する事が出来ず好漁場を発見する事は困難であつた。

(2) 餌 料

夕刻度極端に暗を動員して試験した結果証魚餌料としては良好であつた。然し乍ら日給では必要量を確保する事が出来ず結局は餌料不足で充分なる操業が出来ず止むなく漁獲中の成魚を使って見たが餌付感も弱く即ち、支那産では汁漁は望めないものと考えられる。